樽味（たるみ）高木遺跡（たかぎいせき）１７次調査現地説明会資料

日時：平成２２年３月７日（日）１１時～

図１　調査地と周辺遺跡分布図

樽味高木遺跡１７次調査の概要

所 在 地	松山市樽味四丁目２３３番１の一部
調査期間	平成２２年２月８日 ～ 同年３月６日
調査面積	約４５㎡
調査主体	財団法人松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

１. 調査の経緯

樽味高木遺跡１７次調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『Ｎｏ．８１樽味遺物包含地』内における民間の宅地開発に伴い実施した緊急の埋蔵文化財発掘調査です。調査地の近隣では樽味高木遺跡２次調査や６次調査、１０次調査などが行われ、弥生時代から古墳時代の竪穴住居をはじめ掘立柱建物や土坑、柱穴などが見つかっています。

今回の調査は、宅地開発に伴い遺跡が破壊される建物基礎部分を調査対象地として行うことになりました。調査は樽味地区における弥生時代から古墳時代の集落様相解明を主な目的として、これまでの調査・研究で得られた情報の補充や新たな情報収集のために実施しました。

２. 調査の概要

調査では、弥生時代から中世までの遺構や遺物が見つかりました。

【検出した遺構】

竪穴住居（ＳＢ）：　３棟〔弥生時代中期後半：１棟、古墳時代中期後半：２棟〕

柱　　穴（ＳＰ）：３５基〔弥生時代～中世〕

【出土した遺物】

弥生土器（前期～後期）、土師器（古墳時代～中世）、須恵器（古墳時代）、石器〔石鏃・石庖丁・石斧〕、臼玉

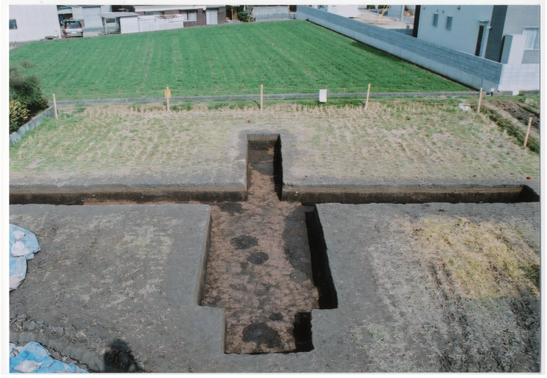


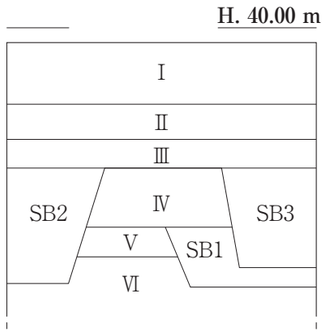
写真１：遺構検出状況

写真２：作業風景

写真３：ＳＢ２検出状況

写真４：ＳＢ１検出状況

ＳＢ１は推定径6.3ｍ、深さ20㎝を測る弥生時代中期後半の円形竪穴住居で弥生土器片や石鏃や石斧、石庖丁などが出土しました。



Ⅰ　耕作土
Ⅱ　水田床土
Ⅲ　古代の堆積層
Ⅳ　古墳時代の堆積層
Ⅴ　弥生時代の堆積層
Ⅵ　地山

図３　土層模式図

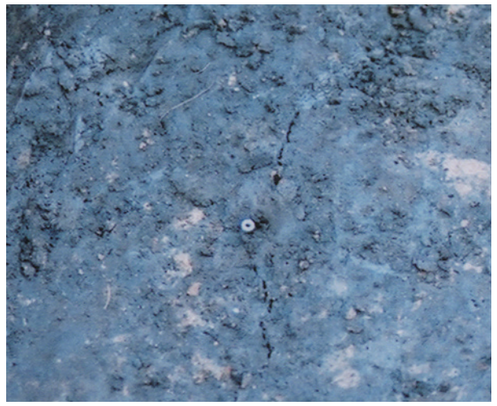


写真５：ＳＢ３臼玉出土状況

ＳＢ３は推定長5.5ｍ、深さ25㎝を測る古墳時代の方形竪穴住居で、住居の一部はＳＢ１と重複しています。

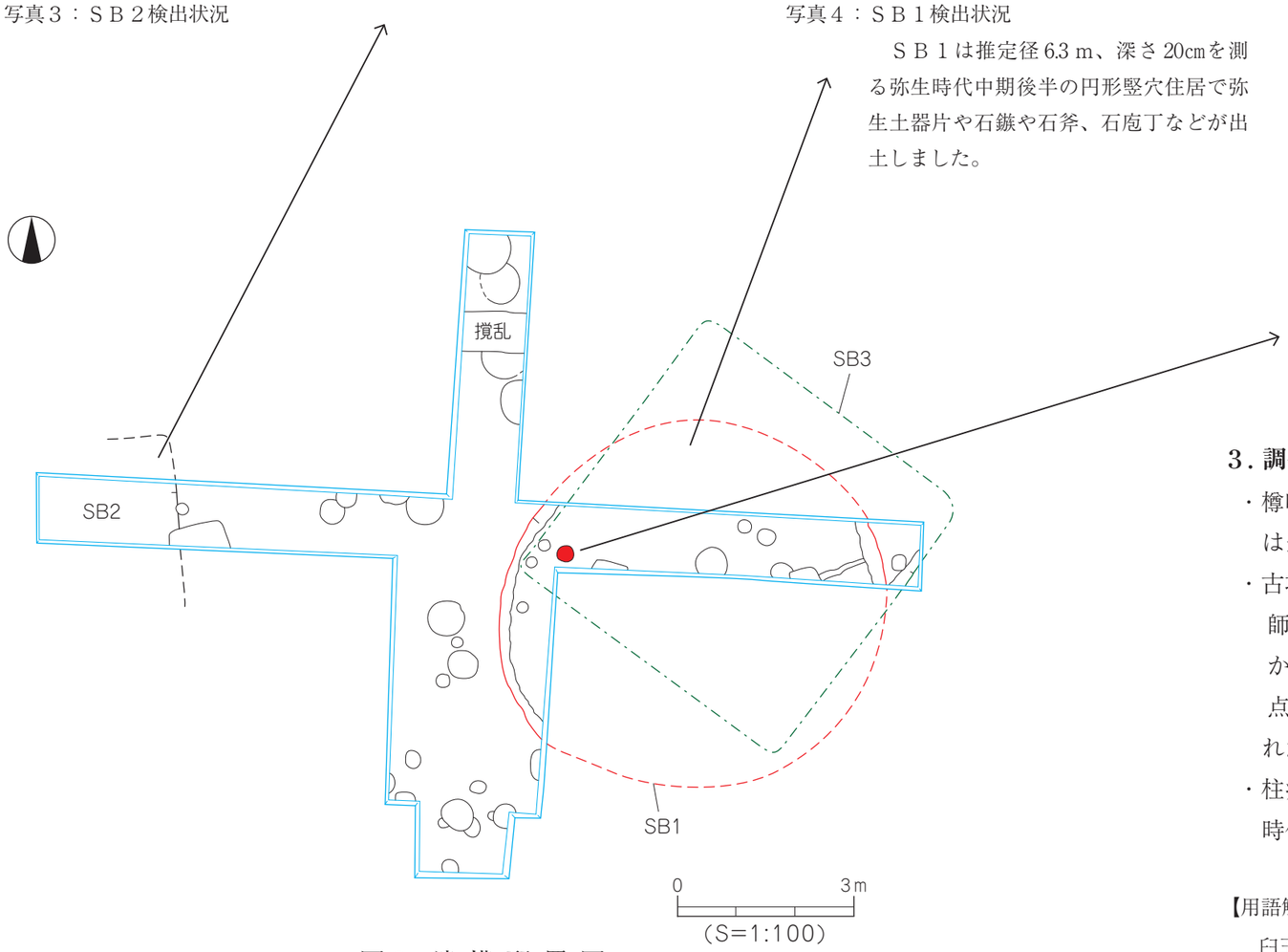


図２　遺 構 配 置 図

３．調査のまとめ

・樽味地区における弥生時代中期後半の竪穴住居は検出事例が少なく、ＳＢ１の検出は当時の住居構造や分布が知れる貴重な資料といえます。

・古墳時代中期後半に時期比定される２棟の竪穴住居からは完形品の出土はなく、土師器や須恵器の破片のほかに弥生土器片や石器が混在して出土しました。この状況から、住居は人為的に埋め戻されたものと思われます。なお、ＳＢ３からは臼玉９点が散在して出土したことから、住居廃絶に伴い臼玉を用いた祭祀儀礼が執り行われたものと推測されます。

・柱痕跡の残る６基の柱穴は掘立柱建物を構成した柱穴と思われ、調査地内には古墳時代後期以降に造られた建物が存在した可能性があります。

【用語解説】

臼玉：古墳時代中期を中心に、滑石と呼ばれる灰色の柔らかい石など加工の容易な石で造られた装身用の玉。複数の臼玉を連ねて首飾りなどに使用。